

非世界

福永 亜紀

淑徳与野高等学校

私は小学生くらいの頃まで、テレビにより自分と繋げられた紛争地や貧困問題を前に、どうにかして解決できないかと頭を巡らせては疲れ果てることを繰り返していました。この強いフラストレーションは、いくら手を挙げたところで誰にも認識されず、「非世界」に属しているような感覚を生み出しました。現在も世界を見回せば、争いに巻き込まれ苦しそうに血を流している人が見えてきますが、私の中で以前のような葛藤が弱まっていることに気がつくのです。原因は、幼き頃の闘志が朽ちたことにあるのではなく、SNSによる「影響力」を手に入れた安心感にあると考えます。これは日常的にSNSを活用している多くの人にも当てはまると考えます。以前は海を越えた国にいるたった一人にさえ声をかけることができなかつたのに、今ではスマホ一つあれば多くの人との会話が可能になります。そのグローバリズムがSNSの世界に国境はなく、どこへでも行けると感じさせるのです。

しかし、その世界の「影響力」は現実の安心に値するのでしょうか。

歴史的に革命と呼ばれるものは、声を上げて団結した者が行動することで成り立ちました。フランス革命を一例にとると抑圧されていた下層民衆が行動力を発揮するときに呼び掛けあったように、SNSのない時代では団結することと実行することは一緒だったのです。対して現代の民主主義では、変革を求めるなら投票にいくようにして、その改革システムを内に組み込んでいます。そこに潜む落とし穴は、SNSでいくら政治に関して議論しあっても、実際に投票に行かなければ意味をなさないということです。実際、スマホが普及し始めたと言われる平成22年頃からの衆議院議員選挙を見ると投票率は減少傾向にあります。これは、インターネット空間における議論を現実にも投影できているという錯覚から来ているとすることができるのではないのでしょうか。

そして2023年の現在、目に見える形で物価が上がり、国同士の戦争も目立ち、世界が大きく揺らいでいます。私は自分たちの持つグローバリズムの感覚が実質的に、私たちを「非世界」に導いているのではないかと危機感を持っています。Twitterで選挙の情報を眺めている人が実際に投票するとは限らないし、貧困問題について心を痛めている人がその募金活動に参加するとも限らないのです。私たちは国家がインターネット上にない限りSNSには実行する力はなく、イノベーションを起こすことにはつながらないということ肝に銘じて生活していく必要があります。

最後に、現代の世界はSNSによって誰もが意見を言い争い兵できる機会を持った戦国時代と化していると言えるでしょう。そしてこの混沌の時代こそ多様な意見が生まれ、イノベーションを起こすための火薬になってくれると思っています。自分たちにできることは、この乱世において情報を取捨選択し仮想空間のできごとに、実態をつけさせることだと考えます。現実に関わることは、「非世界」という無干渉な場所から私たちを解き放ってくれるはずで

参考資料

総務省 HP https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/ritu/